

1 単元名 跳び箱運動

2 運動の特性

(1) 一般的特性

跳び箱運動は、助走からの踏み切り、着手、着地までを一連の動きとして、跳び箱を跳び越す運動である。また、より大きく、きれいに跳び越したり、いろいろな技ができるようになったりする楽しさを味わうことができる運動である。

(2) 子どもから見た特性 (男子20名 女子12名 計32名)

A 運動の楽しさの体験状況

①体育の学習は好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
24名 (75%)	4名 (13%)	3名 (9%)	1名 (3%)
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすのが楽しいから (12名) ・できるようになるのがうれしいから (4名) ・水泳が楽しいから (4名) ・体力がつくから (2名) ・友達と仲良しになれるから (2名) ・走るのが好きだから (2名) ・鉄棒が好きになったから (1名) ・みんなに褒められるから (1名) 		<ul style="list-style-type: none"> ・けがをして怖かったから (3名) ・みんなができていては技ができないから (1名) 	

②跳び箱遊びは好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
22名 (68%)	4名 (13%)	2名 (6%)	4名 (13%)
<ul style="list-style-type: none"> ・跳ぶことが楽しいから (8名) ・きれいに跳べるとうれしいから (6名) ・高い段を跳べるとうれしいから (6名) ・新しい技ができるとうれしいから (6名) 		<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱から落ちてけがをして怖かったから (3名) ・足を開いて縦の跳び箱が跳べないから (1名) ・跳び下りが怖いから (1名) ・うまく跳べないから (1名) 	

③跳び箱遊びで楽しいと感じたり、楽しくないと感じたりするのは、どんなときですか。

(自由記述)

楽しいと感じるとき	楽しくないと感じるとき
<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱が跳べたとき (11名) ・新しい技ができたとき (8名) (遠くにとぶ、高くとぶ) ・高い段を跳べたとき (5名) ・きれいに跳べたとき (5名) ・友達に褒められたとき (2名) ・ない (1名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗したとき (7名) ・きれいに跳べないとき (5名) ・怖いとき (1名) ・失敗して痛い思いをしたとき (1名) ・みんなだけ跳べているとき (1名) ・失敗して友達に変なことを言われたとき (1名) ・ない (16名)

④どのような跳び箱遊びが楽しかったですか。(自由記述)

・覚えていない	(15名)	・足を開いて跳び越えること	(2名)
・跳び乗ったり跳び下りたりする遊び	(16名)	・跳び箱から高く跳ぶこと	(2名)

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

①学習の時に、自分に合っためあてをもって運動していますか。

いつもしている	時々している	していない
11名 (34%)	18名 (56%)	3名 (10%)

②めあてをどうやって決めていますか。

自分で決める	先生や友達と相談して決める	わからない
20名 (63%)	7名 (22%)	5名 (15%)

③友達の良い動きを見つけられますか。

いつも見つけられる	時々見つけられる	見つけられない
12名 (37%)	17名 (53%)	3名 (10%)

④相手の動きを見て、アドバイスできますか。

できる	できない
13名 (41%)	19名 (59%)

⑤うまくできない時やわからない時はどうすればよいと思いますか。(複数回答可)

・友達の動きを見る	(22名)	・少し低い高さで練習する	(4名)
・先生や友達に聞く	(20名)	・動きが書いてあるプリントや映像をみる	
・練習を重ねる	(9名)		(4名)

⑥跳び箱運動の学習でどのようなことが大切だと思いますか。(複数回答可)

・ルールを守ること	(22名)	・安全に気を付けること	(21名)
・楽しく跳ぶこと	(11名)	・練習すること	(10名)
・準備や片付けを頑張ること	(8名)	・技のこつをつかむこと	(6名)
・恥ずかしがらないこと	(6名)	・めあての技・跳び箱を跳ぶこと	(3名)

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況

出席番号	性別	跳び箱運動への意欲	前転	またぎ乗り	またぎ下り	跳び乗り	跳び下り
◎1	男	◎	○	○	○	○	○
2	女	○	○	○	○	△	△
◎3	女	◎	○	○	○	○	○
4	女	△	○	○	○	△	△
5	女	○	△	○	○	○	○
6	男	◎	△	○	○	○	○
△7	男	×	△	○	○	△	△
◎8	男	◎	○	○	○	○	○
9	男	◎	△	○	○	○	○
10	女	◎	○	○	○	△	△
◎11	男	◎	○	○	○	○	○
△12	女	◎	○	○	×	△	△
13	男	◎	△	○	○	△	△
14	男	◎	○	○	○	△	△
15	男	○	△	○	○	○	△
16	男	◎	△	○	○	○	○
△17	女	×	×	○	×	×	△
△18	男	△	×	○	×	×	△
◎19	女	◎	○	○	○	○	○
△20	女	×	×	○	×	×	△
21	男	◎	△	○	○	○	△
◎22	男	◎	○	○	○	○	○
◎23	男	◎	○	○	○	○	○
24	女	◎	○	○	○	○	△
△25	女	○	△	○	×	△	△
26	男	◎	○	○	○	○	△
△27	女	◎	×	○	×	△	△
28	男	◎	○	○	○	△	△
29	男	◎	△	○	○	○	△
30	男	◎	○	○	○	○	○
31	男	◎	○	○	○	△	△
32	男	×	△	○	○	○	△
合計		◎22 ○4 △2 ×4	○17 △11 ×4	○32	○26 ×6	○18 △11 ×3	○12 △20

※またぎ乗り・下り、跳び乗り・下りは、4段の跳び箱で実施

※出席番号 ◎…技能が高い実態 △…技能が低い実態

※意欲 ◎…とても好き ○…どちらかといえば好き

△…どちらかといえば嫌い ×…嫌い

※前転 ○…前転ができる △…前転がりはできる ×…前転がりもできない

※跳び乗り ○…足の裏で乗れる △…ひざで乗れる ×…よじのぼり

※跳び下り ○…安定した着地 △…ふらつきのある着地

【考察】

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の子どもたちの多くは体を動かすことが好きで、体育学習にも意欲的に取り組んでいる。しかし、体育学習が「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えている子どもが4名いる。彼らは運動に対して技能面に苦手意識をもっている。この実態から技能の低い子どもも、今もっている力で楽しめる学習からスタートすることで運動の楽しさを味わい、体育学習に意欲的に取り組むようになると考える。

跳び箱運動の学習については、8割の子どもが「好き」と答えている。その理由としては、「跳ぶことが楽しいから」という理由が多く、どのような高さや跳び方でも、跳び箱を跳ぶことが楽しいと感じている。一方で、「嫌い」と答える子どもが6名いて、「体育が嫌い」という人数よりさらに増えている。その理由は、「怖い」「うまく跳べない」ということであった。そこで、跳び箱に対する恐怖感をやわらげたり、スモールステップで課題を達成したりできる、やさしい場を用意していく。安心して学習に取り組む中で、技ができたときの喜びを味わい、跳び箱運動の楽しさを感じられるようにしたい。

多くの子どもが「跳び箱を跳べた」とときや「新しい技ができた」ときが楽しいと感じている。また、半数の子どもは「跳び乗り・跳び下り」が楽しいと感じている。一方で、楽しかった遊びを「覚えていない」と答えた子どもも半数いる。低学年での跳び箱を使った運動遊びの経験や、学び方の定着に個人差が伺えた。そこで、本単元では跳び箱運動につながる、跳び箱を使った運動遊びで学んだ「跳び乗り・跳び下り」などの動きも取り入れ、十分に経験する時間を単元を通して設定し、意欲化を図るとともに技能の向上もねらっていききたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

学習を進めていく上でうまくできない時やわからない時には、ほとんどの子どもたちが「友達の動きを見る」、「先生や友達に聞く」と答えている。さらに、ほとんどの子どもたちが友達の良い動きを「見つけることができる」と答えており、これまでの学習で友達の良い動きを見つけたり、真似したりしてきた経験が伺えた。しかし、「跳び箱遊び」から「跳び箱運動」へと段階が上がる3年生で、初めから技のポイントを教え合うことは難しい。実態調査では、多くの子どもが「友達の動きを見てアドバイスすることには自信がない」と回答している。本単元では、友達の動きに目が向いている本学級の実態を生かしつつ、見合うポイントを明確化したり、シンプルな資料を用意したりすることで、友達とのかかわり合いを充実させていきたい。跳び箱運動は個人主体の運動であるが、みんなで励まし合ったり、少しでも教え合ったりする授業を目指していく。

また、多くの子どもが「自分に合っためあてをもって運動している」と答えた。しかし、6、7月に実施した鉄棒運動では、自己の課題や解決の仕方など具体的なめあてを立てられた子どもは少なかった。そこで、学習カードを工夫して、自分の力に合っためあてを立てられるようにしていきたい。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

技能面に大きな個人差が見られた。マット運動の前転は半数程しかできておらず、足の裏で跳び乗ったり、跳び下りから安定して着地したりできなかった子どもも多い。

そこで、本単元では、カエルの足うちや跳び乗り・下りなど、跳び箱運動につながる運動を毎時間行い、腕支持や逆さ感覚、助走・踏み切り・着手・着地などの基本的な動きに多く触れられるようにしていく。

また、もち技が少ない子どももいるので、またぎ乗り・下りや跳び乗り・下りも、今できる跳び方として認めることで、誰もが跳び箱運動の楽しさを味わえるようにしていきたい。

3 視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 視点と学習の手立て

視点1

子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

<手立て>

○実態を考慮した道すじ

本学級の子どもは、技能の習得状況に大きな個人差があり、跳び箱遊びに十分に親しめなかった子どもが多い。そのため、今もっている力で楽しめる学習から始めていく必要がある。さらに、「跳び箱遊び」から「跳び箱運動」に移行していく3年生という実態から、本学習で跳び箱運動の技について知ること、自分の力に合っためあてを立てていくことを考慮しなければならない。

そこで、第1時のオリエンテーション後、第2時にめあて①「今できる跳び方で楽しむ。」、第3時にめあて②「少し練習すればできそうな跳び方に挑戦して楽しむ。」を1時間ずつ行い、それぞれの学び方を理解し、楽しさに触れさせていく。全員が安心して跳び箱運動に取り組むと共に、学習資料を活用して、本学習での自分の目標を見付け、課題を設定する段階としていく。第4時からは、めあて①・めあて②のスパイラル型の道すじで進め、両方の楽しさを1単位時間の中で味わえるようにしていく道すじを設定した。1単位時間の中で2つの楽しさを味わうことが個人の欲求の差を埋め、学習意欲を高める上で大切だと考える。2つの楽しみ方の違いを知り、自分の力に合っためあてを立てる活動につなげたい。

学習の見通し

オリエンテーションのもち技調べとして、技の系統表（ステップアップカード）から、本学習でどの技ができるようになりたいか目標を立てる。その目標設定が今回の学習の見通しをもつことである。一人一人の子どもが、それぞれの楽しめるゴールをもち、それに向けて課題と方法を考え、選んでいく。技能面を気にしている意欲の低い子どもも、自分で立てた目標を達成しようとする意欲をもち、自分の課題を解決する喜びを味わえるようにしたい。目標設定やめあての内容については、資料を活用しつつ、友達のめあてを参考にしたり、教師と相談したりしながら指導・支援をしていく。

また、跳び箱遊びの要素を含んだもの（跳び乗り・下り、またぎ乗り・下り、平均台跳び、重ねマットで前転等）についても、めあて①・②の内容として認めていくことで、跳び箱運動に苦手意識をもつ子どもが安心して楽しめる学習にしていく。

めあて①の考え方

今できる技のできばえにこだわり、技をきれいにする楽しさを十分に味わわせたい。技をきれいにするポイントを3つに絞り、「両足をそろえた踏み切り」「両手をそろえた着手」「両足をそろえた着地」とした。この3つのできばえを友達と見合いながら、進めていきたい。

めあて②の考え方

技のポイントを示した学習資料や、課題に合った工夫した場を準備する。特に、跳び箱運動が嫌いな子どもは「けがが怖い」という理由が多かったため、その子どもに合ったやさしい場を準備し、常に安全面に留意する。できない技へ挑戦する恐怖心や不安を取り除き、スモールステップで新しい技の習得を目指せるようにしていきたい。

視点2

一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

<手立て>

○学習カードの工夫

自分の力に合っためあてを立てられる子どもが少なく、3年生ということでどのような技があるかを知らない子どもがほとんどである。そこで、めあてを立てたり振り返りをしたりする学習カードは、めあてを選択できるようにしたシンプルなカードにしていく。

めあてとする技を選ぶこと自体も難しいので、系統表(ステップアップカード)を活用する。また、系統表の内容については、技だけでなく、跳び乗り・下りやまたぎ乗り・下りなどの跳び箱を使った運動遊びの動きも取り入れていく。そうすることで、めあて①では、みんなができる跳び方から始めることができ、また、めあて②では、スモールステップで取り組むことができるだろう。そのようにして、自分の力に合っためあてを立てて学習し、「できた喜び」を味わえるようにしていきたい。

○見合う視点の明確化

友達の動きに目が向いており、友達の良い動きを見付けられる子どもも多い。ただ、跳び箱遊びから跳び箱運動に移行したばかりの3年生という実態として、友達と見合い、教え合うことは難しい。そこで、明確な見合う視点があれば友達と見合い教え合うことができると考えた。見合う視点は以下の通りである。

<めあて①の見合うポイント>・・・踏み切り・着手・着地

①両足をそろえた踏み切り

②両手をそろえた着手

③両足をそろえた着地

3つから1つをめあてとして設定する。めあてにしたポイントを同じ場の人に見てもらおう。

<めあて②の見合うポイント>・・・技ができたかどうか＝着地ができたかどうか

○着地…2秒間その場で静止できる。

○着地…着地後1歩のふらつき。

※ 試しの場で「○着地」が2回できたら、もち技として認める。

4 学習のねらい

○友達の良いところを認め、励まし合いながら、安全に跳び箱運動を楽しむことができる。

【関心・意欲・態度】

○技のポイントや練習の仕方を知り、自分の力に合っためあてを選ぶことができる。

【思考・判断】


○自分の力に合った跳び越し方をすることができる。

【技能】


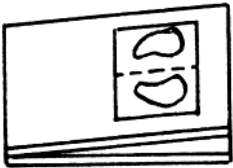
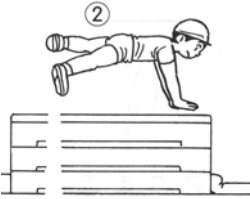
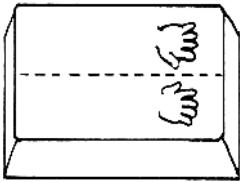
5 評価規準（おおむね満足できる状況）

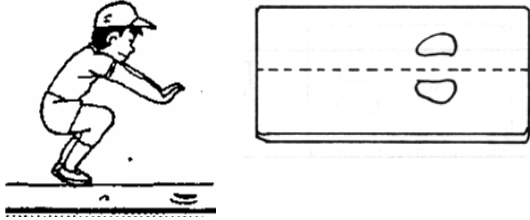
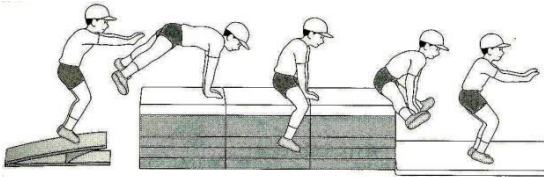
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・技ができる楽しさや喜びにふれることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ・器械・器具の使い方や運動の行い方の決まりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 ・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ・基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った基本的な支持跳び越し技ができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ③安全に気を付けて場を整備したり、友達と協力して準備や片付けをしたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①技のポイントを知るとともに、自分の力に合っためあてを選んでいる。 ②自分のめあてに合った練習方法や練習の場を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①助走から両足をそろえて踏み切ることができる。 ②両手をそろえて着手することができる。 ③両足をそろえて着地することができる。

6 学習の道すじ

	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8
0  45	オリエンテーション	つながる運動						
		めあて①	めあて②	めあて① 今できる跳び方で楽しもう。				
めあて② 少し練習すればできそうな跳び方に挑戦して楽しもう。					まとめ			
関・意・態	① ③		②		③			②
思考・判断		①		②			①	②
技能		③		①		②	③	

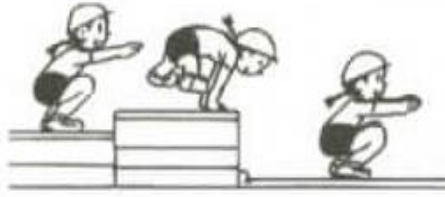
7 学習活動と教師の支援

	学習内容と活動	教師の支援 (○)・評価 (◇)
はじめ	<p>【オリエンテーションをする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや道すじを理解し、見通しをもつ。 ○場づくり (マットの持ち方、跳び箱の運び方) やマナー、安全について理解する。 ○技能のポイント (踏み切り、着手、着地) を確認する。 ○ストレッチ、つながる運動を行う。 ○ステップアップカードを使い、持ち技調べをする。 ○学習カードの使い方について理解する。 <p>◇跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 【関・意・態①】</p> <p>◇安全に気を付けて場を整備したり、友達と協力して準備や片付けをしたりしようとしている。 【関・意・態③】</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ①両足をそろえた踏み切り ②両手をそろえた着手 ③両足をそろえた着地 </div>
なか① 2時間目	<p>1 協力して場づくりをする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストレッチ ○つながる運動 ・カエルの足うち、カエルの逆立ち、ウサギ跳び、跳び乗り・下り <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて① 今できる跳び方を楽しもう。</div> <p>3 めあて①の活動をする。</p> <p><予想される活動とめあての例></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">両足の踏み切り</div> <ul style="list-style-type: none"> ・両足で踏み切れているか見合う。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <p>①</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">両手の着手</div> <ul style="list-style-type: none"> ・両手で手を着いているか見合う。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <p>②</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に気を付けながら、協力して準備するように声を掛ける。 ○主運動へのつながりを意識してつながる運動を行えるよう動きのポイントを指導する。また、ポイントができていない子どもには、声を掛けたり教師が師範したりする。 ○めあてを数名に発表させ、めあての内容とめあて①の活動の仕方を確認する。 ○両足をそろえた踏み切り、両手をそろえた着手、両足をそろえたピタッと着地ができている子どもを称賛する。 ○両足をそろえた踏み切りができていない子どもには、踏み切る場所をテープで示し、その場所で踏み切るよう声を掛ける。 ○互いに声を掛け合い、アドバイスをし合っている子どもを称賛し、学習の意欲を高める。 ○跳び終わったら、ずれたマットや跳び箱を直すよう助言し、安全面に配慮する。 ○自分のめあてに合わせて良い動きをしている子どもを取り上げ、全体やその場で紹介する。

<p>なか① 2時間目</p>	<p>両足で着地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両足でピタッと着地ができているか見合う。  <p>4 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習を振り返り、学習カードに記録する。 ○次時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。 <p>5 後片付けをする。</p>	<p>◇両足をそろえて着地をすることができる。</p> <p>【技③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○着地につまずいている子どもには、個別に声を掛けて、簡単な動き（ウサギ跳び、跳び下り）の中でポイントを確認するよう支援する。 <p>○めあて①の学び方や楽しみ方、友達との関わり方ができたかを確認する。</p> <p>◇技のポイントを知るとともに、自分の力に合っためあてを選んでいる。 【思・判①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の役割を素早く終え、終わっていない分担任を進んで手伝っている子どもを称賛する。
<p>なか② 3時間目</p>	<p>1 協力して場づくりをする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストレッチ ○つながる運動 <ul style="list-style-type: none"> ・カエルの足うち、カエルの逆立ち、ウサギ跳び、跳び乗り・下り <p>3 学習のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="255 1366 1412 1438" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて② 少し練習すればできそうな跳び方に挑戦して楽しもう。</p> </div> <p>4 工夫した場の使い方を確認する。</p> <p>5 めあて②の活動をする。</p> <p>【予想される活動とめあての例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○またぎ乗り・下り <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト跳び箱で練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に気を付けながら、協力して準備するように声を掛ける。 ○主運動へのつながりを意識してつながる運動を行えるよう動きのポイントを指導する。また、ポイントがおさえられていない子どもには、声を掛けたり教師が師範したりする。 ○正しい行い方をしている子どもを称賛し、よい動きのイメージを学級に広げる。 <p>○どのようなめあてに効果的か場について紹介し、数名の子どもに行わせ、使い方を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○取り組む技のポイントや自分の課題を確認し、自分に合った練習の場を選択できるように声を掛ける。必要に応じて教師が補助したり、手本を見せたりする。 ○初めて取り組む場なので安全面に注意して活動するよう声を掛ける。 ○つまずきに対して教え合ったり、一緒に考えたりしている子どもを称賛する。 ○新しい課題が見つかった際には、資料を参考にして練習の場を選択するように助言する。

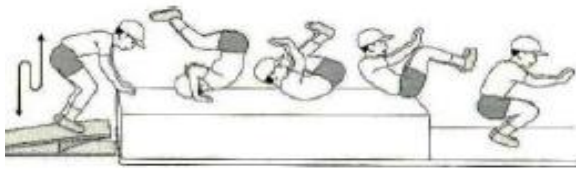
○開脚（パー）跳び

- ・階段跳び箱で、肩を前に出して着手し、遠くに跳ぶ。



○台上前転（回り）

- ・重ねたマットの上で、まっすぐ回れるように練習する。



6 できばえを確認する。

7 学習の振り返りをする。

- 今日のめあてについて振り返り、学習カードに記入する。
- 次時のめあてを立てる。

8 後片付けをする。

- 工夫した場で動作が安定してできるようになった子どもには、試しの場で挑戦するよう促す。

- 試しの場に行くきっかけがつかめない子どもには、工夫した場を試しの場に変える。
- 子どもたちが考えた技の名称から、一般的な技の名称を伝え、ポイントを示していく。

◇きまりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。【関・意・態②】

- 自分に合った工夫した場で練習して、新しい技ができるようになった子どもを紹介・称賛し、学習への意欲を高める。また、できるようになった技やその技のポイントを全体で共有する。

- 学習カードで今日の振り返りを行い、次時への見通しをもてるようにする。
- 自分の力に合っためあてが選べるよう、ステップアップカードを活用して助言する。

- 安全に気を付けて、友達と協力して後片付けをさせる。

1 協力して場づくりをする。

○安全に気を付けながら、協力して準備するよう
に声を掛ける。

◇友達と協力して準備しようとしている。

【関・意・態③】

2 準備運動をする。

○主運動へのつながりを意識してつながる運
動を行えるよう動きのポイントを指導する。
また、ポイントができていない子どもには、
声を掛けたり教師が師範したりする。
○実態に応じて、つながる運動の内容を選び変
えていく。

○ストレッチ

○つながる運動

・カエルの足うち、カエルの逆立ち、馬跳び、
ウサギ跳び、跳び乗り・下り など

3 めあて①を確認する。

めあて① 今できる跳び方を楽しもう。

4 めあて①の活動をする。

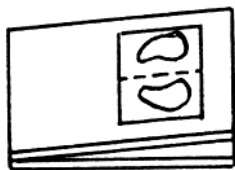
○自分の合っためあてを立てている数名に発
表させ、めあて①の内容を確認する。

【予想される活動とめあての例】

両足の踏み切り

○両足がそろった強い踏み切り、上から両手を
そろえた着手、膝を使って両足をそろえた柔
らかに着地ができている子を称賛する。

・両足そろえて踏み切れているか見合う。

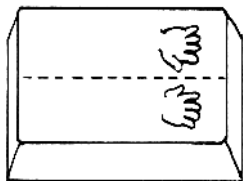
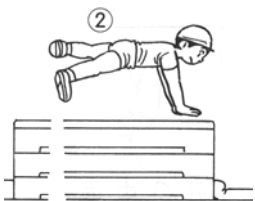


両手の着手

○互いに声を掛け合い、アドバイスをし合っ
ている子を称賛し、学習の意欲を高める。

・両手をそろえて着いているか見合う。

○自分のめあてに合わせて良い動きをして
いる子どもを取り上げ、全体やその場で紹介す
る。

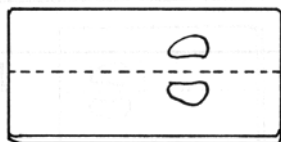


両足で着地

◇きまりを守り、友達と励まし合って運動をし
ようとしている。【関・意・態②】

・両足そろってピタッと着地ができている
か見合う。

◇安全に気を付けて場を整備したり、友達と協
力して準備や片付けをしたりしようとして
いる。【関・意・態③】

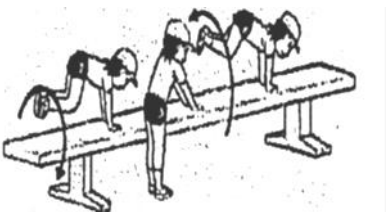
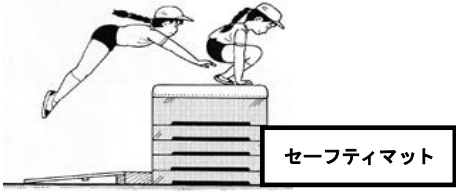


◇技のポイントを知るとともに、自分の力に合
っためあてを選んでいる。【思・判①】

◇助走から両足をそろえて踏み切ることがで
きる。【技①】

◇両手をそろえて着手することができる。

【技②】

<p>5 めあて②を確認する。</p>	<p>○取り組む技や練習の方法を確認し、自分に合った方法や場を選べるようにする。</p>
<p>めあて② 少し練習すればできそうな跳び方に挑戦して楽しもう。</p>	
<p>6 めあて②の場を準備する。</p> <p>7 めあて②の活動をする。 【予想される活動とめあての例】</p> <p>○横跳びこし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰が高く上がるように平均台を使って、跳び越しをする。  <p>○かかえこみ（グー）跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト跳び箱に跳び乗ったり、セーフティマットをしいた場で跳び越したりして、実際に練習してみる。  <p>8 できばえを確認する。</p> <p>9 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日のめあてについて振り返り、学習カードに記入する。 ○次時のめあてを立てる。 <p>10 後片付けをする。</p>	<p>○子どもの活動の様子を見て、場の変更を指示する。</p> <p>○取り組む技のポイントや自分の課題を確認し、自分に合った練習の場を選択できるように声を掛ける。必要に応じて教師が補助したり、手本を見せたりする。</p> <p>○つまずきに対して教え合ったり、一緒に考えたりしている子どもを称賛する。</p> <p>○新しい課題が見つかった際には、資料を参考にして練習の場を選択するように助言する。</p> <p>○工夫した場で動作が安定してできるようになった子どもには、試しの場で挑戦してみるよう促す。</p> <p>○実態に応じて教師が補助を行う。</p> <p>○技ができた子どもには、跳び箱の向きや高さ、着地の位置を工夫するよう声を掛ける。また、手本を見せたり、アドバイスをしたりするよう声を掛ける。</p> <p>◇自分のめあてに合った練習方法や練習の場を選んでいる。【思・判②】</p> <p>◇両足をそろえて着地をすることができる。</p> <p>【技③】</p> <p>○自分に合った工夫した場で練習して、新しい技ができるようになった子どもを紹介・称賛する。また、できるようになった技のポイントを全体で共有する。</p> <p>○学習カードで今日の振り返り等を行い、次時への見通しをもてるようにする。</p> <p>○自分の力に合っためあてを選べるよう、ステップアップカードを活用して助言する。</p> <p>○安全に気を付けて、友達と協力して後片付けをしている子どもを称賛する。</p> <p>◇友達と協力して片付けようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関・意・態③】</p>

まとめ	<p>11 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none">○跳び箱運動に進んで取り組むことができたか。○きまりを守り、友達と励まし合って運動することができたか。○安全に気を付けて場を整備したり、友達と協力して準備、片付けをしたりすることができたか。○自分の力に合っためあてをもったり、練習の場を選択したりすることができたか。○自分の力に合った跳び越し方ができるようになったか。
-----	--